

(4) その他集会施設

1) 施設概要

① 施設一覧

本市ではその他の集会施設として、市民の交流及び各種団体の集いの場として旭台会館を、勤労青少年の福祉の増進と健全な育成を図るため勤労青少年ホームを設置しています。

表 施設一覧

名称	所在地	延床面積 (㎡)	建築年度 (年度)	構造 (主たる建物)	備考
1 旭台会館	旭台二丁目18番3号	708.09	昭和62	RC造	
2 勤労青少年ホーム	石岡2149番地3	1,528.00	昭和55	RC造	
合計		2,236.09			

② 事業内容

・施設の維持管理・貸出業務及び自主事業の開催

③ 開館時間等（平成26年度）

施設	開館時間	休館日	開館日数
旭台会館	午前9時～午後10時	毎週月曜日，祝日，年末年始	294日
勤労青少年ホーム	午前9時～午後9時 (日曜のみ午前9時～午後5時)	祝日，年末年始	341日

④ 利用方法

旭台会館は、利用者の制限等は特にありませんが、勤労青少年ホームは、利用条件に「市内に居住又は勤務する15歳以上おおむね30歳未満の勤労青少年」と記していて、勤労青少年の利用に支障のない限り、それ以外の者にも使用させるとなっております。

また、いずれの施設も利用にあたっては、事前の使用許可及び利用料が発生する場合には前納する必要があります。旭台会館は、使用許可申請は利用日の60日前から受付し、勤労青少年ホームは、利用日の前月の最初の営業日から受付します。(H28.3現在、今後見直しを予定しております。)

⑤ 配置状況

図 その他集会施設 位置図

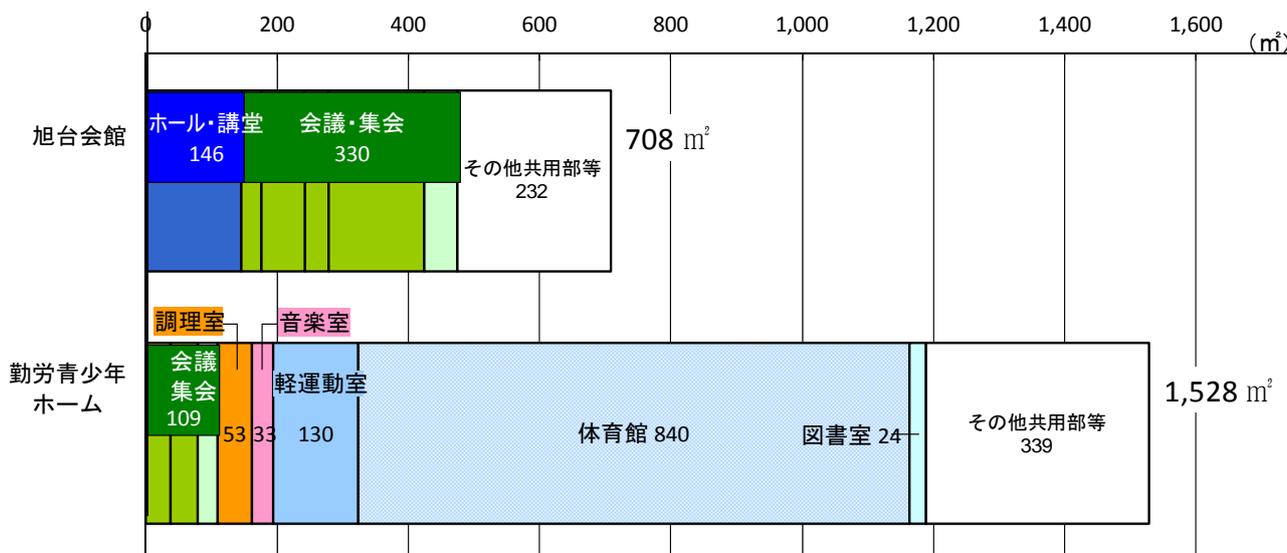


⑥ スペース構成

その他集会施設 2 施設の床面積は、旭台会館が 708 m²、勤労青少年ホームが 1,528 m²です。

スペース構成の特徴としては、旭台会館ではホール関係が 146 m²、会議・集会系が 330 m²で、会議・集会系が全体の約半分程度を占めています。一方、勤労青少年ホームには集会系や調理・音楽等の特定機能室の他に軽運動室・体育館が合計 970 m²あり、全体の 63%を占めています。

図 スペース構成（平成 26 年度）



2) 実態把握

① 建物状況

■ その他集会施設の建物総合評価結果

平成 26 年度のその他集会施設 2 施設の建物状況について評価を行いました。

No.	施設名	基本情報		①耐震化	②老朽化			③劣化状況	④バリアフリー対応						⑤環境対応	⑥維持管理 床面積当たり (円/㎡)			
		建築年度	延床面積 (㎡)	耐震診断・耐震改修	築年数	直近の大規模改修	大規模改修後経過年数	劣化問題回数	エレベーター※1	車いす用トイレ	障がい者用トイレ	車いす用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	太陽光発電の導入	自然エネルギー※2	環境対応設備※2	光熱水費
1	旭台会館	昭和62	708	不要	28	-	28	△	×	×	×	○	△	×	×	×	×	指定管理委託費に含むため評価しない	6,985
2	勤労青少年ホーム	昭和55	1,528	不要	35	-	35	△	×	○	○	○	○	○	×	×		733	

記載例	③	○:劣化がみられないもの △:一部に劣化がみられるもの・不明 ×:屋根・外壁等の重要部位に劣化がみられるもの	④	○:実施済 △:一部実施・不明 ×:未実施	⑤	※1 手すり・鏡・低い操作ボタン等 ※2 節水型便器, 高効率照明器具・LED照明, 雨水・中水設備 ※①の「不要」には, 耐震診断の結果耐震補強が不要な施設と, 新耐震基準施設のため不要な施設が含まれる。
-----	---	--------------------------------------------------------------	---	-----------------------------	---	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 施設ともに耐震安全性は確保されています。一方、勤労青少年ホームは築 35 年の施設で、老朽化対策が望まれます。旭台会館は間もなく築 30 年を迎える施設で、屋根防水及び外壁の改修を実施しています。但し一部室内壁面に劣化がみられますので、状況により対策が必要です。勤労青少年ホームでは部分的な指摘がみられます。

バリアフリー化について、勤労青少年ホームはある程度対応が進んでいます。旭台会館ではあまり対応が進んでいません。

なお、両施設とも指定管理方式のため、維持管理費の評価は行っていません。特定の不具合や効率の悪い設備などの検証が望まれます。

評価	パターンⅡ 老朽化	パターンⅣ 今後 老朽化
	<p>・老朽化が進行している ⇒建替え又は大規模改修などの老朽化対策の検討が必要な施設</p> <p>①耐震化 ②老朽化 ③劣化状況 ④バリアフリー対応 ⑤環境対応 ⑥維持管理</p> <p>優先2</p> <p>振分基準: パターンⅠ以外で ②=1の施設</p>	<p>・今後、老朽化が進行する ⇒今後老朽化対策の検討が必要になる施設</p> <p>①耐震安全性 ②築年数 ③劣化状況 ④バリアフリー ⑤環境対応 ⑥維持管理</p> <p>優先4</p> <p>振分基準: パターンⅠ以外で ②=2, ③=2又は3の施設</p>
該当施設	<p>該当施設 建築年度 勤労青少年ホーム 昭和55</p> <p>< 1 施設 ></p>	<p>該当施設 建築年度 旭台会館 昭和62</p> <p>< 1 施設 ></p>
コメント	<p>・耐震安全性は確保されているものの、築30年以上経過しており、老朽化対策が必要です。</p>	<p>・耐震性や老朽化の面では緊急な状況にはないが、室内壁面に修繕の必要な劣化がみられ、対策が必要です。</p>

② 利用状況

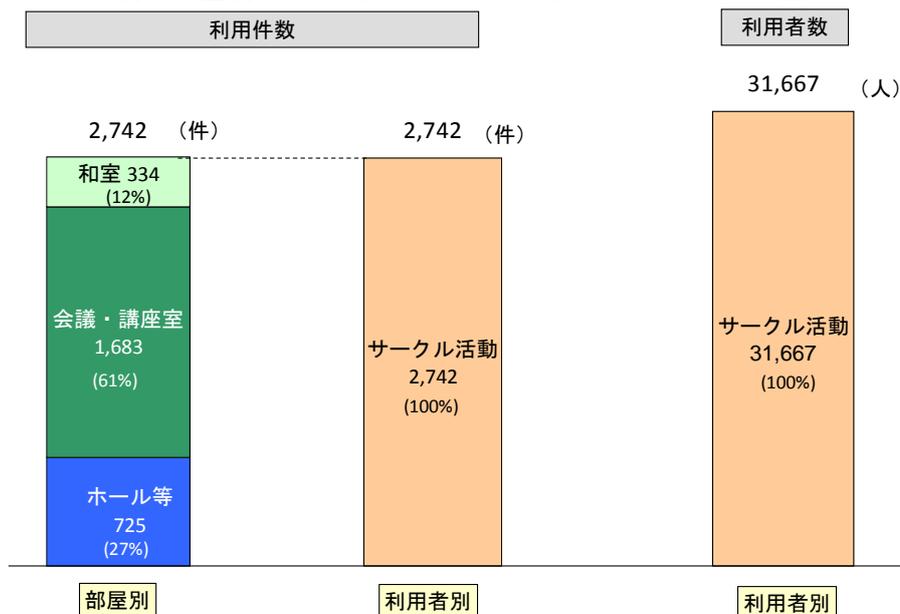
■ 年間利用件数・利用者数

<旭台会館>

旭台会館の利用件数合計は年間 2,742 件、利用者数は 31,667 人です。

利用者は主にサークル活動です。部屋別の利用件数をみると、会議・集会系が多く、和室も含めると 7 割以上を占めています。

図 旭台会館 利用者別・部屋別年間利用件数・年間利用者数（平成 26 年度）



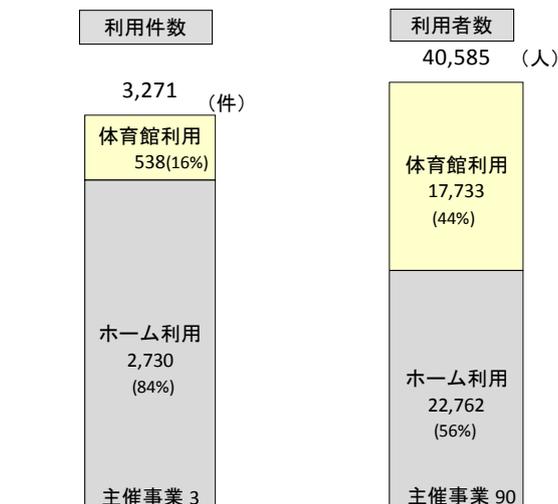
<勤労青少年ホーム>

勤労青少年ホームの利用件数は年間 3,271 件、利用者数は 40,585 人です。

利用者数ではホーム利用が全体の約 56%で体育館をやや上回っています。主催事業の利用は 90 人となっています。利用件数ではホーム利用が全体の 84%を占めています。

なお、近年少子高齢化の進行や青少年を取り巻く社会環境の変化に伴い、勤労青少年の利用が激減し、利用者や利用目的に著しい変化を来しています。今後は、施設の利用状況等を精査して実情に即した運営方法の検討を行う必要があります。

図 勤労青少年ホーム年間利用件数・年間利用者数（平成 26 年度）

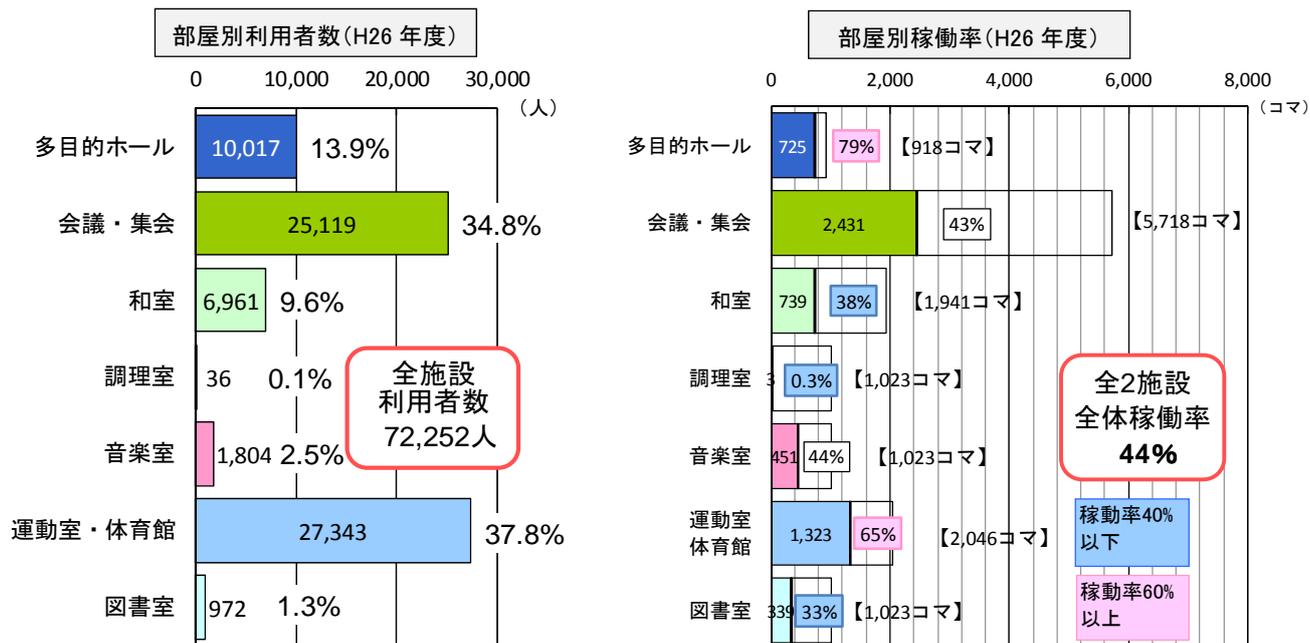


■ 部屋別の利用状況

<全体>

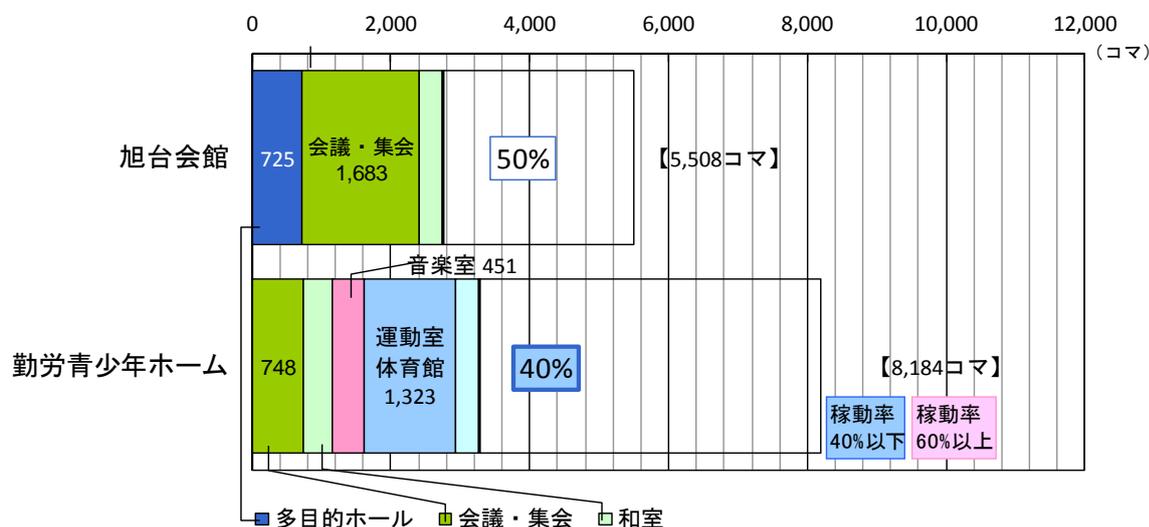
2施設全体の部屋別利用者数は、和室を含めた会議・集会系諸室が全体の34.8%、運動室・体育館が全体の37.8%を占めています。調理室等の特定用途の部屋の利用はわずかです。稼働率では多目的ホールが79%、運動室・体育館が65%と高くなっており、会議・集会系諸室は40%前後です。全体の稼働率は44%となっています。

図 全施設 部屋別利用者数及び稼働率（平成26年度）



施設別の稼働率を比較すると、旭台会館は全体で50%、勤労青少年ホームは40%となっています。旭台会館ではホール、会議・集会系諸室が中心ですが、勤労青少年ホームでは運動室・体育館や音楽室といった特定用途の部屋の利用もあります。

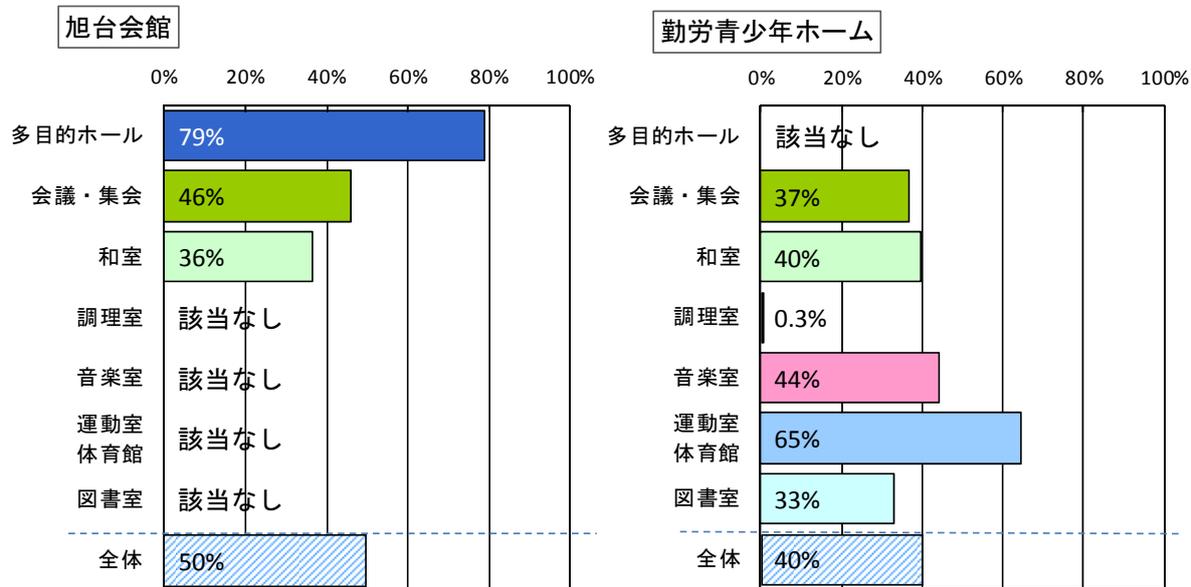
図 施設別稼働率（平成26年度）



■ 施設別・部屋別稼働率

部屋別の稼働率を施設別にみていくと、旭台会館の多目的ホールが80%弱と高くなっています。勤労青少年ホームは運動室・体育館が65%で高くなっています。その他の諸室は両施設とも40%前後の稼働率となっています。

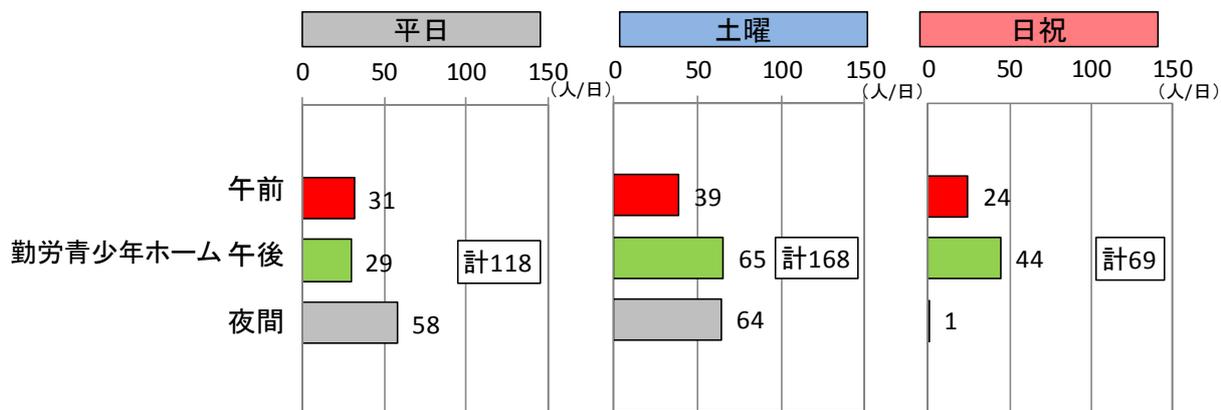
図 施設別稼働率（平成26年度）



■ 曜日・時間帯別利用状況

時間帯別の利用状況は、勤労青少年ホームでは午後の利用が最も多くなっています。また、平日、土日別にみると、土曜日の利用が最も多くなっています。

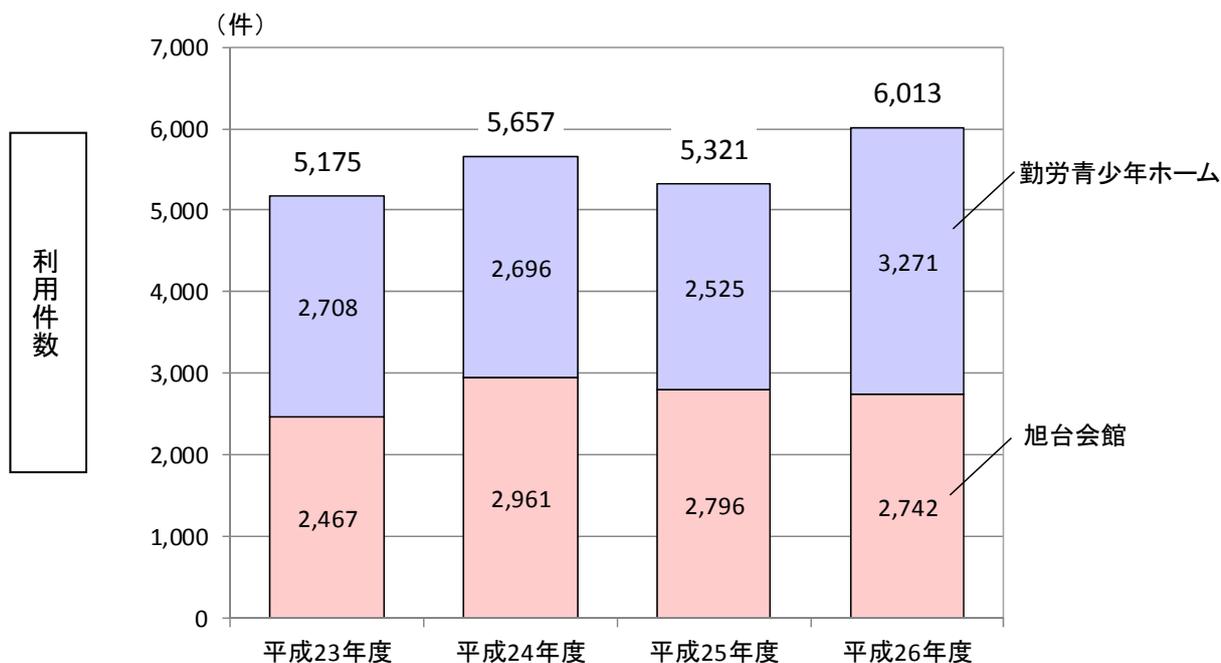
図 曜日・時間帯別利用状況（平成26年度）



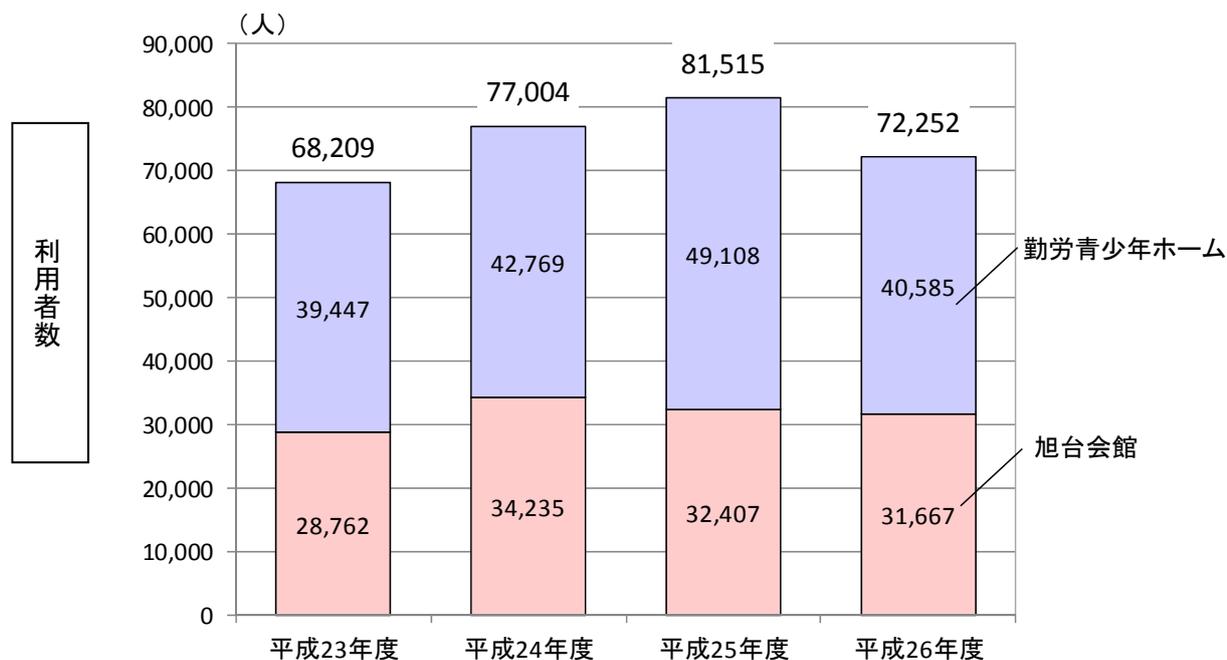
■ 利用推移

直近4年間の2施設の合計利用状況の推移をみると、利用件数は平成23年度の5,175件から平成26年度は6,013件へと増加しています。一方利用者数は平成23年度の6万8,209人から平成25年度は8万1,515人へと増加傾向にありましたが、平成26年度は7万2,252人に減少しています。1件当たりの利用者数は13人から12人へと減少しています。

図 年間利用件数・利用者数の推移



利用1件当たり利用者数	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
	13人/件	14人/件	15人/件	12人/件



③ 運営状況

■ 運営人員

その他集会施設の運営方式は2施設とも指定管理方式となっています。旭台会館は一般職員が1人、臨時職員が2人、委託職員が1人となっています。勤労青少年ホームは臨時職員が3人となっています。

表 運営人員（平成26年度）

(人)

		旭台会館	勤労青少年ホーム	合計
管理運営形態		指定管理	指定管理	
施設維持管理	一般職員	1.00		1.00
	臨時職員		0.55	0.55
	その他職員(委託)	1.00		1.00
	計	2.00	0.55	2.55
事務・庶務, 受付・案内	臨時職員	2.00	2.40	4.40
	計	2.00	2.40	4.40
各種講座・講演会等の企画・開催	臨時職員		0.05	0.05
	計		0.05	0.05
合計	一般職員	1.00		1.00
	臨時職員	2.00	3.00	5.00
	その他職員(委託)	1.00		1.00
	合計	4.00	3.00	7.00

■ 運営体制

運営体制は施設によってやや異なりますが、日中は2人、夜間は1人が主な体制となっています。なお旭台会館の日曜日の日中は1人体制、勤労青少年ホームの毎月最初の営業日は予約受付のため増員して運営する体制となっています。

図 運営体制（平成26年度）

旭台会館		9:00	17:15	22:00	
	平日(火～金)・土曜日 運営体制 1～2人	指定管理者 一般職員 1人			
		指定管理者 臨時職員 1人		指定管理者 その他職員1人	
日曜日 運営体制 1人	指定管理者 臨時職員 1人		指定管理者 その他職員1人		
勤労青少年ホーム		8:30	10:30	17:15	21:15
	平日(月～金)・土曜日 運営体制 1～2人	指定管理者 臨時職員 2人	(予約受付: 毎月最初の営業日のみ)		
		指定管理者 臨時職員 2人		指定管理者 臨時職員1人	
日曜日 運営体制 2人	指定管理者 臨時職員 2人				

④ コスト状況

その他集会施設2施設の年間トータルコストは2,817万円です。年間トータルコストのうち、施設にかかるコストは607万円(22%)、事業運営にかかるコストは10万円、減価償却相当額が826万円(29%)、指定管理委託料が1,375万円(49%)となっています。

表 施設別行政コスト計算書(平成26年度)

(千円)

I. 現金収支を伴うもの【コストの部】		旭台会館	勤労青少年ホーム	合計
施設にかかるコスト	修繕費	4,946	1,120	6,066
	施設にかかるコスト	4,946	1,120	6,066
事業運営にかかるコスト	修繕費		33	33
	その他物件費	42	20	62
	事業運営にかかるコスト	42	53	95
指定管理委託料		6,503	7,250	13,753
現金収支を伴うコスト 計		11,491	8,423	19,914

【収入の部】

収入	分担金及び負担金(収入)		1,207	1,207
	使用料収入		12	12
収入の合計			1,219	1,219

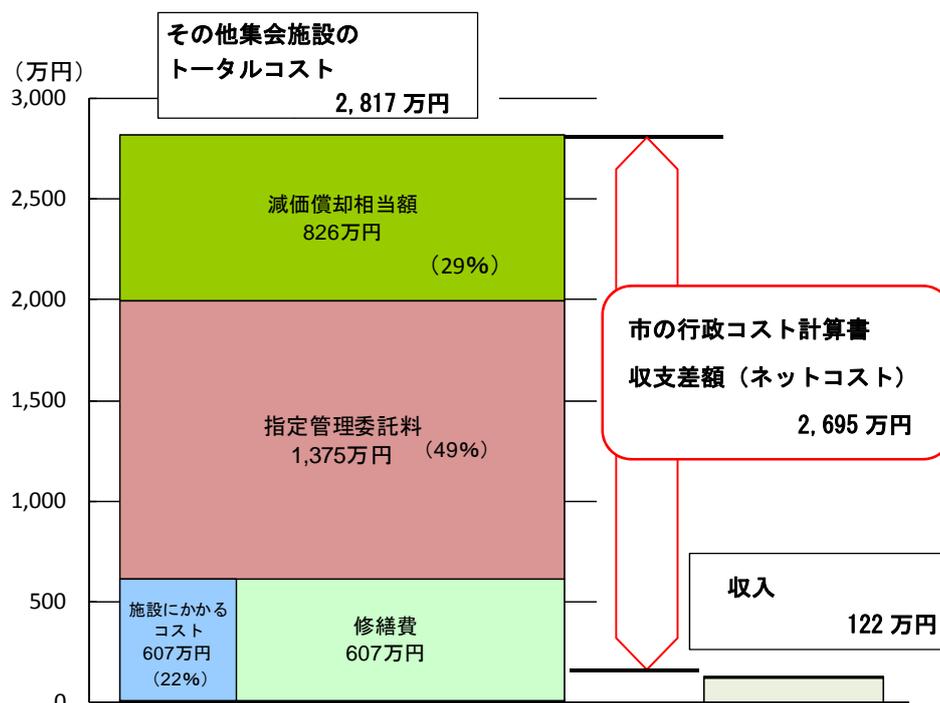
II. 現金収支を伴わないもの

コスト	減価償却相当額	4,070	4,185	8,255
-----	---------	-------	-------	-------

III. 総括

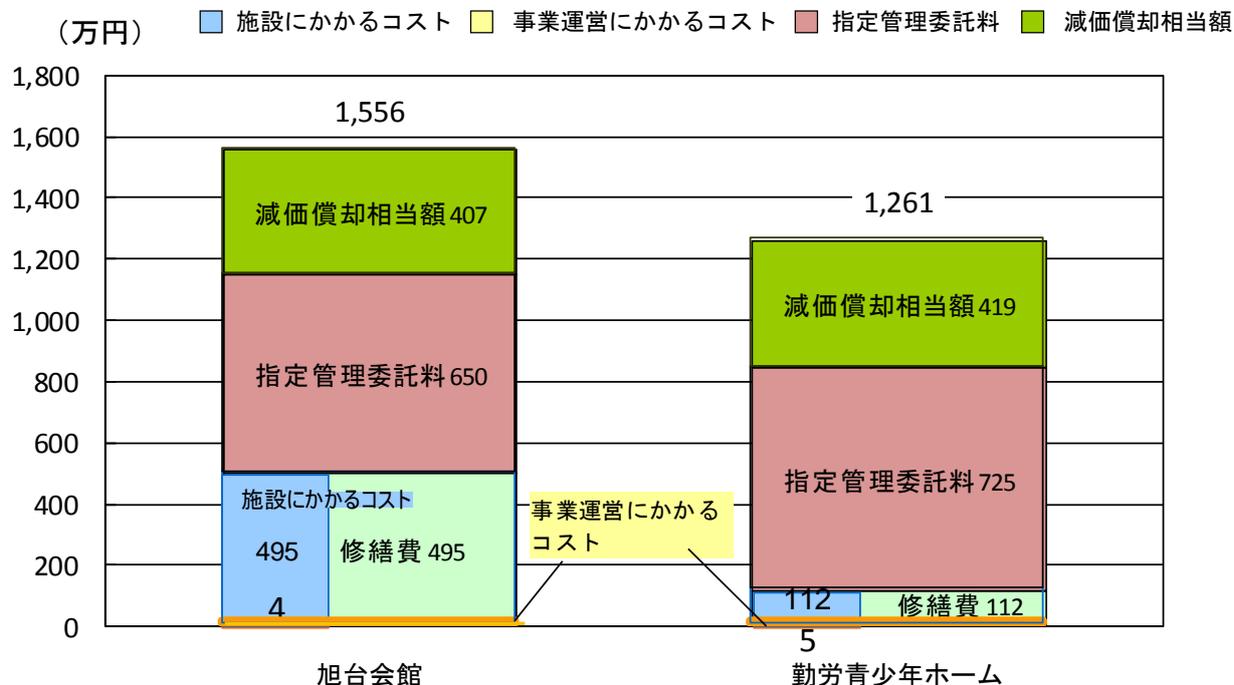
コストの部合計(トータルコスト)	15,561	12,608	28,169
収支差額(ネットコスト)	15,561	11,389	26,950

図 全施設トータルコスト(平成26年度)



施設別のトータルコストでは、旭台会館は1,556万円、勤労青少年ホームが1,261万円となっています。

図 施設別トータルコスト（平成26年度）

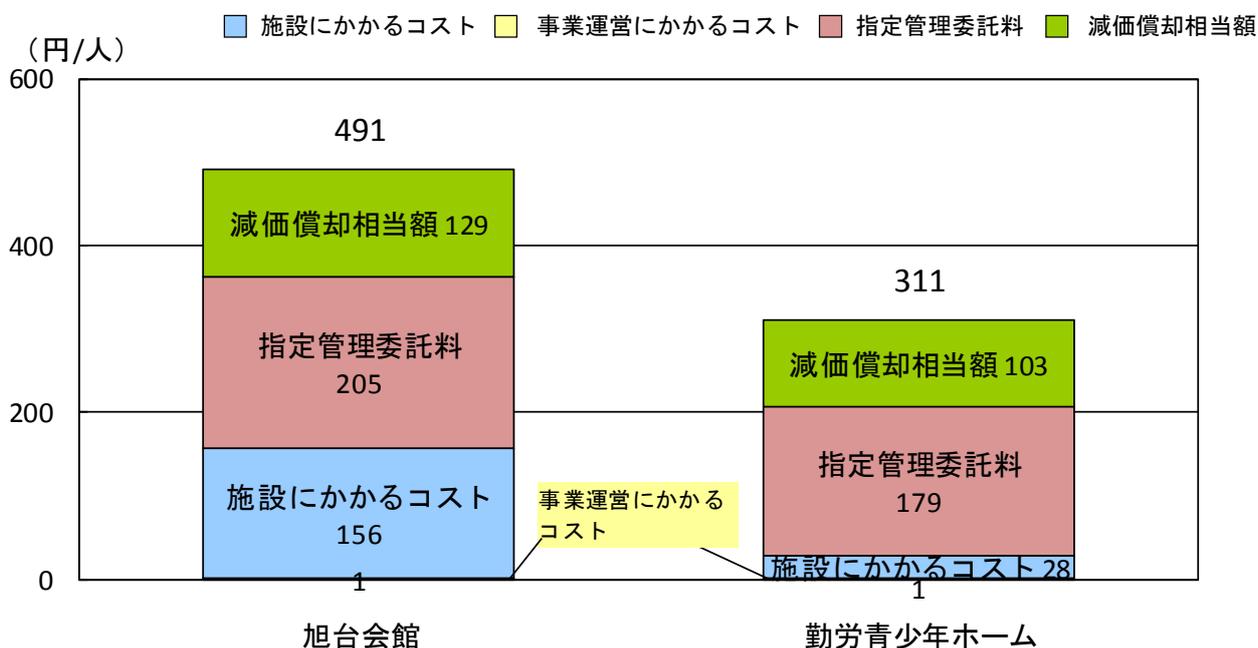


3) 評価・分析

■ 利用者1人当たりにかかるコスト

年間利用者数とトータルコストから利用者1人当たりにかかるコストを算出すると、旭台会館が491円/人、勤労青少年ホームが311円/人となっています。

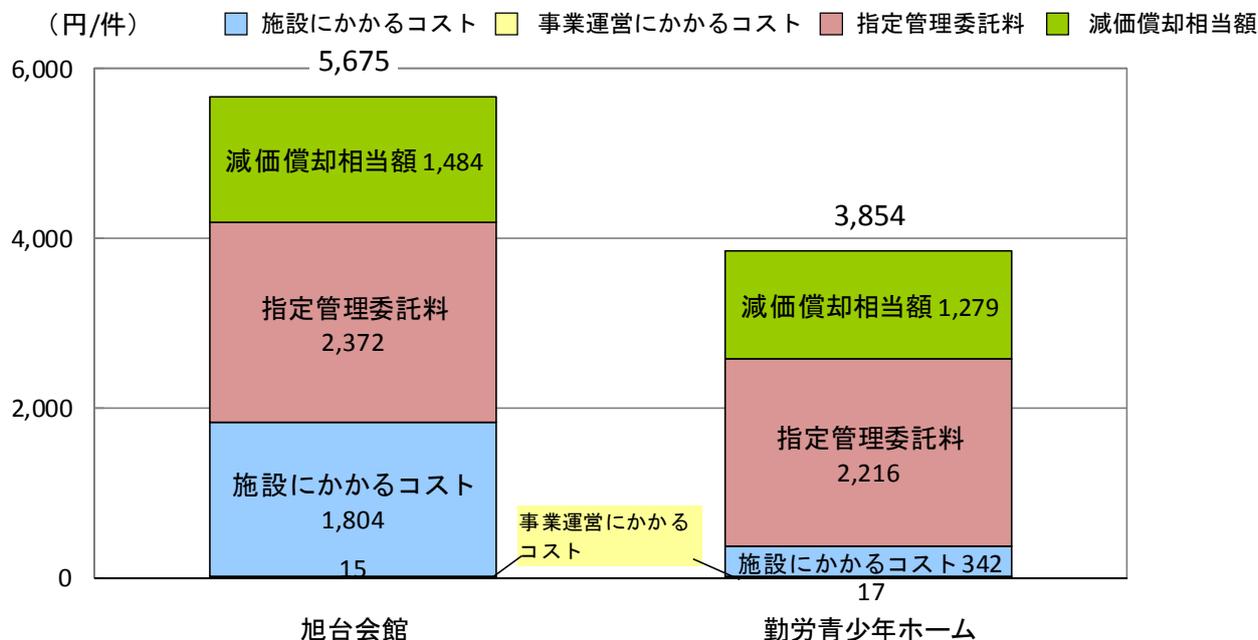
図 施設別 利用者1人当たりにかかるコスト（平成26年度）



■ 利用1件当たりにかかるコスト

年間利用件数とトータルコストから利用1件当たりにかかるコストを算出すると、旭台会館が5,675円/件、勤労青少年ホームが3,854円/件となっています。

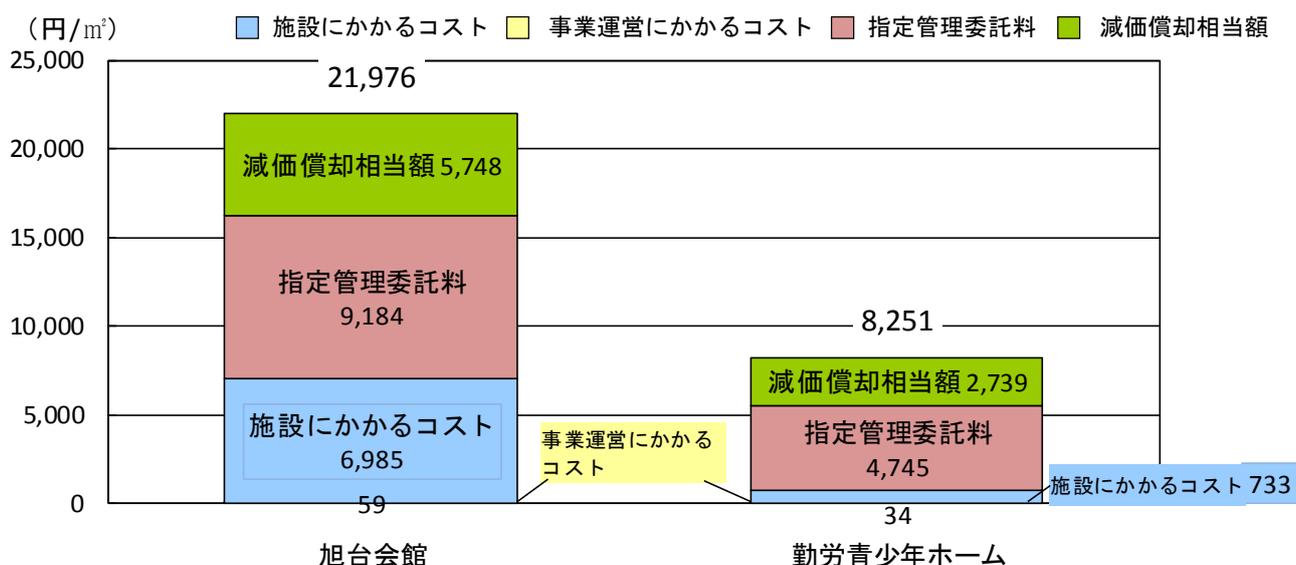
図 施設別 利用1件当たりにかかるコスト（平成26年度）



■ 床面積1㎡当たりにかかるコスト

床面積とトータルコストから床面積1㎡当たりにかかるコストを算出すると、旭台会館が2万1,976円/㎡、勤労青少年ホームが8,251円/㎡となっています。

図 施設別 床面積1㎡当たりにかかるコスト（平成26年度）



4) 今後の検討の視点

■ 施設に関する視点

- 構造部材の耐震対策は対応済みですが、今後は非構造部材の耐震化が必要です。
- 勤労青少年ホームは、施設の老朽化に伴う改修工事の実施について検討を行う必要があります。
- 環境対応やいっそうのバリアフリー化とともに、維持管理経費の把握による健全性や効率性の検証が望まれます。

■ 利用に関する視点

- 旭台会館の多目的ホールは80%弱、勤労青少年ホームの軽運動室・体育館は65%と高い稼働率となっており、調理室や図書室の稼働率は低くとどまっています。稼働率が低い原因の特定、機能配置の見直しなどが求められるものと考えられます。
- 勤労青少年ホームに関しては、設置当時からの社会状況等の変化に伴い、抜本的な運営方針の変更が必要と考えられます。利用実態に応じた機能配置や用途の見直しも含めた検討が望まれます。

■ コストに関する視点

- 旭台会館は勤労青少年ホームと比べると、修繕費の分だけ施設にかかるコストが高くなっており、他は概ね同等です。修繕内容も含めた建物の健全性の検証が必要と思われれます。